

- ・
- ・
- ・

スポーツ代理人

スポーツ代理人とは、アメリカメジャーリーグで最も頻繁に聞く言葉ではないかと思われる。彼ら代理人は「Sports-Agent」(スポーツエージェント)と呼ばれる。業務は、プロスポーツ選手の選手活動におけるサポート・バックアップ等を請け負う。当然に選手側からの要求を球団・スポンサーへ伝える橋渡し役を担って活動する。

日本では、純粋にプロスポーツと呼ばれて認識されているのは野球とサッカー、ゴルフ、バレーぐらいだろう。しかし、プロとはいえない実業団アマチュア選手でもスポーツを職業として、または、世界トップの「夢」を目指して個人で選手活動をおこなっている選手も少なくはない。むしろ、それが日本のプロ選手と呼ばれる事もある。選手が選手活動をしていくためには、活動資金がどうしても必要になる。上記のように純粋にプロとして活動していけない競技も日本には存在する。



- ・
- ・
- ・

スポーツ代理人

選手の契約交渉業務を行う他、選手が競技に専心できるような環境整備が重要な仕事。米国ではMLB(メジャーリーグ)、NBA、NFL、NHLといった4大プロスポーツにおいてエージェント登録の制度があり、登録先はリーグ事務局ではなく選手組合。

SFXグループや、インターナショナル・マネジメント・グループ(IMG)などが有名。

エージェントになる条件が最も厳しいサッカーでは、FIFA(国際サッカー連盟)が公認代理人資格試験を実施していたが、2001年から各国協会の認定方針に変更。日本サッカー協会も同年に公認代理人制度をスタートし、06年現在16人が登録している。日本のプロ野球においては、野球協約上に代理人を拒否する条項はないものの、第三者が介入すると球団と選手の信頼関係が揺らぎかねないといった理由で、権利行使が抑制されている。

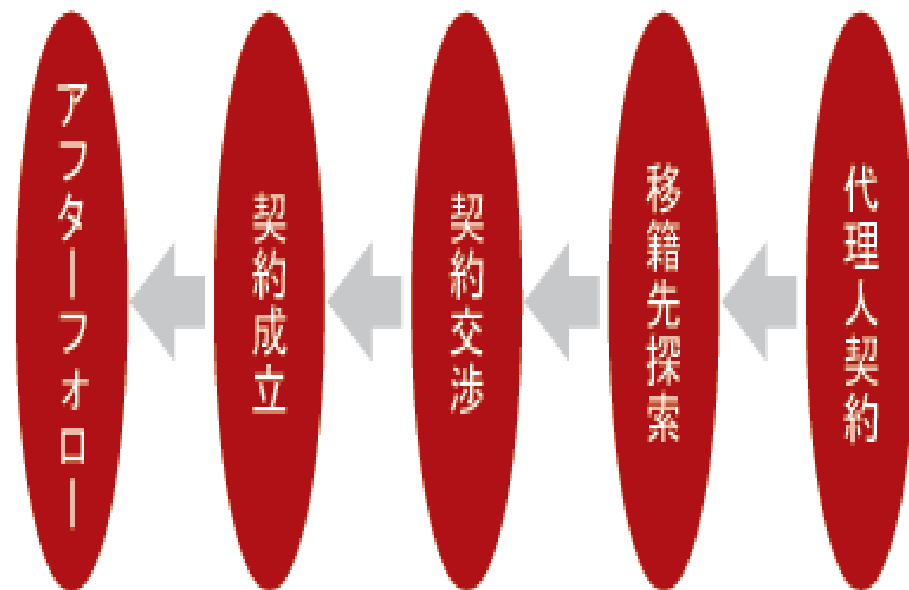


スポーツ代理人

選手の発掘、スカウトから、年俵交渉、移籍契約などを手掛け、選手のスポーツ人生のプロデュースに大きく貢献している。

ビジネス界の人材紹介会社と同様、登録した選手の移籍先を探して交渉する場合と、クラブから希望のポジションに当てはまる選手のスカウトを依頼されて選手獲得に動く場合の、二つの流れがあるという。

■スポーツエージェントの代理人契約



選手と代理人契約し、マーケット分析や宣材作成後に交渉が始まる。報酬は年俵の1割が目安。企業オファーの場合は成功報酬になることも



- ・
- ・
- ・

スポーツ代理人

海外移籍を希望する選手には、「この選手を見て欲しい」と海外クラブに売り込むため、ワンシーズンを準備期間を設定することもあるという。

クラブオファーがあって動くケースでは、登録選手の中に該当者がいない場合、豊富な人脈を通じて該当選手を発掘する。実際に試合会場に出向いて身体能力やプレイぶりをチェック。甲子園やインターハイなど、まだ世の中に出ていない新しい選手が登場する大会で隠れた才能を青田刈りチェックすることもある。

代理人の前身で多いのは、元プロ選手やトレーナーなどの内部出身者、スポーツライターなどの業界人脈・知識の豊富な者、弁護士など法的知識の豊富な人。ビジネス的な視点を入れることで、移籍や年俸交渉がスムーズに運ぶケースも多いという。



・
・
・

行政書士との関係

平成14年7月1日より改正行政書士法が施行された。

従来の許認可業務に加えて、行政書士法第1条の3-2へ行政書士が作成できる『契約』その他に関する書類を『代理人』として作成すること＝が新たに加わった。

この改正により、民間同士での契約代理業務が可能になった。

つまり、従来法律上では、民間と民間のあいだでの代理行為(法律行為)は「弁護士」に限られていた(一部弁理士)。

しかし、今回の改正で新たに行政書士も、『代理人』として民間の間で『契約』業務ができるようになった。法律(行政書士法)で明文化された代理人。



-
-
-

野球の代理人

トニー・アタナシオ (Tony Attanasio)

案野 裕行 (あんの ひろゆき)

市原 稔 (いちはらみのる)

グレゴリー・ドウェイン・“ブーマー”・ウェルズ

(Gregory DeWayne “Boomer” Wells)

コウタ (Kota)

ゲイリー・アントニアン・シェフィールド

(Gary Antonian Sheffield)

ダグ・デシンセイ こと ダグラス・バーノン・デシンセイ

(Douglas Vernon DeCinces)

アーン・テレム (Arn H. Tellem)

団 野村 (だん のむら)

”トニー”アントニオ・バナザード・ガルシア

(Antonio “Tony” Bernazard Garcia)

テリー・ブロス (Terrence Paul “Terry” Bross)

スコット・ボラス (Scott Boras)

©ATSUTO NISHIO



-
-
-
-
-
-
-
-

- ・
- ・
- ・

アーン・テレム

アメリカ合衆国のスポーツ・エージェント。NBAとメジャーリーグベースボールを中心に手がける。ペンシルベニア州フィラデルフィア出身。現在のアメリカ合衆国で最も影響力を持つスポーツエージェントの1人。

1976年にハバフォード大学を卒業し、1979年にミシガン大学ロースクールで法学博士の学位を取得。その後はカリフォルニア州ロサンゼルス
の法律事務所に勤務し、1981年からスポーツエージェントとしての活動を開始。1982年から1988年までは、NBAロサンゼルス・クリッパーズの相談役を務めた。

野茂英雄のメジャー挑戦の際には、野茂の代理人を務めた団野村から相談を受け、日本の球団を退団しメジャーリーグ球団と契約する抜け道が任意引退扱いであることを発見した。

現在は、ロサンゼルスに本社を持つスポーツエージェント会社「WMG マネジメント」の主任代理人を務める



・
・
・

大型契約(MLB)

1997年 - フランク・トーマス シカゴ・ホワイトソックスと6670万ドルの9年契約

1998年 - アルバート・ベル ボルチモア・オリオールズと6500万ドルの5年契約

2000年 - マイク・ムシーナ ニューヨーク・ヤンキースと8850万ドルの6年契約

2001年 - ジェイソン・ジアンビ ニューヨーク・ヤンキースと1億2000万ドルの7年契約

2005年 - 松井秀喜 ニューヨーク・ヤンキースと5200万ドルの4年契約

2006年 - カルロス・リー ヒューストン・アストロズと1億ドルの6年契約

2007年 - チェイス・アトリー フィラデルフィア・フィリーズと8500万ドルの7年契約

2008年 - ハンリー・ラミレス フロリダ・マーリンズと7000万ドルの6年契約

2012年 - ダルビッシュ有 テキサス・レンジャーズと6000万ドルの6年契約



・
・
・
・
・
・
・

主なクライアント

○NBA

■現役選手

デリック・ローズ ラッセル・ウェストブルック ダニーロ・ガリナリ ベン・ウォーレス ジョー・ジョンソン
トレイシー・マグレディ パウ・ガソル ジャーメイン・オニール

■引退選手

レジー・ミラー ブランドン・ロイ

○MLB

■現役選手

高橋尚成 ダルビッシュ有(団野村との提携) 岩隈久志 岡島秀樹(2012年まで)
藤川球児(団野村との提携) チェイス・アトリー ジェイソン・ジアンビ

バートロ・コローン バリー・ジト(2006年まで) リッチ・ハーデン カルロス・リー

アラミス・ラミレス ウィルソン・ベテミー ワンディ・ロドリゲス ジェイソン・クベル

ファン・オビエド アレックス・リオス ハンリー・ラミレス デルモン・ヤング

エドウィン・エンカーナシオン マット・キャップス ユネル・エスコバー ケンリー・ジャンセン

スターリン・カストロ ジャンカルロ・スタントン ハンク・コンガー ラファエル・ファーカル

ヨエニス・セスペデス

■引退選手

松井秀喜 アルバート・ベル フランク・トーマス マイク・ムッシーナ ノマー・ガルシアパーラ

ジェイソン・ケンドール

■北米以外の選手

松井稼頭央(2010年まで) 井川慶 五十嵐亮太 真田



-
-
-

団 野村

日本の元プロ野球選手(内野手)であり、アメリカのスポーツ界における交渉代理人(エージェント)である。

日本名は野村 克晃(のむら かつあき)。KDNマネジメント社・KDNスポーツ社(ロサンゼルス市)代表。

日本に駐留していたアメリカ軍将校の東欧系ユダヤ人と、後に再婚して野村克也夫人となった、野村沙知代(当時の名前は、伊東芳枝)とのあいだに生まれた。

実弟は元プロ野球選手のケニー野村。継父は元プロ野球監督の野村克也、異父弟として元プロ野球選手・現プロ野球コーチの野村克則がいる。



-
-
-

主なクライアント

○MLB

野茂英雄(2008年に現役引退)

吉井理人(2003年からNPBオリックス・ブルーウェーブに移籍。2007年現役引退)

中村紀洋(2005年まで)

藪田安彦(2010年からNPB千葉ロッテマリーンズに移籍)

岩隈久志(2011年まで)

ダルビッシュ有(アーン・テレムとの提携)

藤川球児(アーン・テレムとの提携)

小林公太

○NPB(現役のみ)

渡辺俊介

ジョン・ボウカー

ブレット・ハーパー

トニー・バーネット

セス・グライシンガー

ブランドン・マン

ラスティンガス・ミレッジ

ダグ・マシス

ボビー・クレイマー



・
・
・

スコット・ボラス

アメリカ・メジャーリーグを中心に手がけるスポーツ・エージェント。カリフォルニア州サクラメント出身。多くの高額契約を締結してきた事で知られる。

ボラスはシカゴ・カブス、およびセントルイス・カーディナルス傘下のマイナーリーグチームで主に二塁手・三塁手としてプレーしていた経験がある。1976年にはフロリダ・ステートリーグのオールスターにも選ばれたが、結局メジャーリーグには昇格できず(AA以下)、4年の現役生活の後、膝の悪化を理由に引退(3度に渡って手術を受けている)。マイナー通算成績は371試合出場、打率.288、5本塁打、79打点。パシフィック大学の法律学部にカブスの援助で進学し、医学訴訟を専攻。工業薬理学の博士号も取得。その後医療過誤に特化したシカゴの法律事務所に務め、かつての同僚がメジャーリーグに昇格する際に代理人を依頼してきた事を契機にスポーツ・エージェントとしてのキャリアをスタートさせる。最初の巨額契約となったのは元同僚のビル・コーディルが1985年にトロント・ブルージェイズと結んだ750万ドルの5年契約だった(コーディルはその後3年で肩部関節炎のために31歳の若さで引退)。



-
-
-

巨額契約

- 1998年 - バーニー・ウィリアムズ ニューヨーク・ヤンキースと8750万ドルの7年契約。
- 1998年 - ケビン・ブラウン ロサンゼルス・ドジャースと1億500万ドルの7年契約
- 2000年 - マニー・ラミレス ボストン・レッドソックスと1億6000万ドルの8年契約
- 2000年 - アレックス・ロドリゲス テキサス・レンジャースと2億5200万ドルの10年契約
(当時の全米プロスポーツ史上最高額の契約)
- 2000年 - ダレン・ドライフォート ロサンゼルス・ドジャースと5500万ドルの5年契約
- 2002年 - 朴賛浩 テキサス・レンジャースと6500万ドルの5年契約
- 2004年 - カルロス・ベルトラン ニューヨーク・メッツと1億1900万ドルの7年契約
- 2005年 - ジョニー・デーモン ニューヨーク・ヤンキースと5200万ドルの4年契約
- 2005年 - バリー・ボンズ サンフランシスコ・ジャイアンツと1,800万ドルの1年契約
- 2005年 - ケビン・ミルウッド テキサス・レンジャースと6000万ドルの5年契約
- 2006年 - バリー・ジト サンフランシスコ・ジャイアンツと1億2600万ドルの7年契約
- 2006年 - J.D.ドリュー ボストン・レッドソックスと7000万ドルの5年契約
- 2006年 - 松坂大輔 ボストン・レッドソックスと5200万ドルの6年契約



-
-
-
-
-
-
-

巨額契約

- 2008年 - ミゲル・カブレラ デトロイト・タイガースと1億5230万ドルの8年契約
- 2008年 - マーク・テシェイラ ニューヨーク・ヤンキースと1億8000万ドルの8年契約
- 2008年 - デレク・ロウ アトランタ・ブレーブスと6000万ドルの4年契約
- 2009年 - マット・ホリデイ セントルイス・カーディナルスと1億2000万ドルの7年契約
- 2010年 - スティーブン・ストラスバーグ ワシントン・ナショナルズと1510万ドルの4年契約(MLBドラフト史上最高額の契約)
- 2010年 - ジェyson・ワース ワシントン・ナショナルズと1億2600万ドルの7年契約
- 2011年 - エイドリアン・ベルトレー テキサス・レンジャーズと8000万ドルの5年契約
- 2012年 - プリンス・フィルダー デトロイト・タイガースと2億1400万ドルの9年契約(MLB史上4位の大型契約)
- 2013年 - ジャコビー・エルズベリー ニューヨーク・ヤンキースと1億5300万ドルの7年契約

これらボラスの手がけた巨額契約のいくつかは繰り返す怪我のために選手がまともに働けず、チームの足かせとなっているものもある。



主なクライアント

○MLB現役選手

エイドリアン・ベルトレー

アレックス・ロドリゲス

J.D.ドリュー

カルロス・ベルトラン(2011年まで)

ジョニー・デーモン

ブルース・チェン

ジェyson・ワース

ラファエル・ソリアーノ

カイル・ローシュ

フランシスコ・ロドリゲス

カルロス・ペーニャ

ホセ・バルベルデ

リック・アンキール

ロビンソン・カノー(2013年まで)

ジャコビー・エルズベリー

プリンス・フィルダー

マイケル・ボーン

秋信守

マーク・テシェイラ(2011年まで)

ライアン・マドソン(2013年まで)

ケンドリス・モラレス

ルーク・ホッチェバー

クリス・デービス

バリー・ジト

松坂大輔(2013年まで)

ジェレッド・ウィーバー

ジェイアー・ジャージェンス

エドウィン・ジャクソン

カルロス・ゴメス

マックス・シャーザー

マット・ホリデイ

カルロス・ゴンザレス

スティーブン・ドリュー

イアン・ケネディ

ダニー・エスピノーザ

トミー・ハンソン

オースティン・ジャクソン

ペドロ・アルバレス

エバース・カブレラ

エルビス・アンドラス

マット・ウィーターズ

ドモニック・ブラウン

スティーブン・ストラスバーグ

ジェレミー・ヘリクソン

エリック・ホズマー

マイク・ムスターカス

デズモンド・ジェニングス

ダスティン・アクリー

ブライス・ハーパー

マット・ハービー

ゲリット・コール

ホセ・フェルナンデス

柳賢振

陳偉殷



主なクライアント

○海外選手

金炳賢

ダスティン・ニッパート

尹錫珉

アンドリュー・ジョーンズ

ライアン・スピルボーグス

陽耀勲

マニー・ラミレス(2011年まで)

○引退選手

ダレン・ドライブフォート

ケビン・ブラウン

バリー・ボンズ

ケニー・ロジャース

グレッグ・マダックス

バーニー・ウィリアムズ

ギャレット・アンダーソン

エリック・ガニエ

マグリオ・オールドニェス

ジェイソン・バリテック

イバン・ロドリゲス

朴賛浩

ケビン・ミルウッド

デレク・ロウ



- ・
- ・
- ・

サッカーの代理人

日本では「Jリーグ規約」で、代理業務を行えるのは弁護士、またはFIFA公認代理人(選手エージェント)に限ると定められている。

選手エージェントの認定試験は、FIFAが定める内容で、毎年3月と9月の2回、全世界で同日に実施される。

認定は各国サッカー協会に委ねられており、日本サッカー協会公認は20人(2007年4月時点)。



⋮

主な代理人と契約プレイヤー

【ブラジル】

ロベルト・アシス (ロナウジーニョ)

ジルマール (アドリアーノ、ファビーニョ、ファン、レイナウド、ワシントン)

ワグネル・リベイロ (ロビーニョ)

コンスタンチン・テオ (ジュニーニョ、ディエゴ・ソウザ、ネネ、フッキ、フランサ、ポンテ、マギヌン、マルシオ・リシャルデス、レアンドロ、レナチーニョ)

ビスマルク

マルコス



・
・
・

主な代理人と契約プレイヤー

【イタリア】

ジョヴァンニ・ブランキーニ

(大黒将志、レイ・コスタ、ロナウド)

マウリツィオ・モラーナ(下村東美)

ダヴィデ・リッピ

【イングランド】

ピニ・ザハビ(スヴェン・ゴラン・エリクソン)



・
・
・

主な代理人と契約プレイヤー

【オランダ】

ミノ・ライオラ

(ズラタン・イブラヒモビッチ、パヴェル・ネドヴェド、マリオ・バロテッリ、マレク・ハムシク、ポール・ポグバ)

【ドイツ】

トーマス・クロート

(大久保嘉人、香川真司、高原直泰、長谷部誠)

隅 勝彦



・
・
・

主な代理人と契約プレイヤー

【スペイン】

マヌエル・フェレール(アルベルト・ルケ)

【ポルトガル】

アレシャンドレ・リベイロ(松井大輔)

ホルヘ・メンデス

(クリスティアーノ・ロナウド、デコ、リカルド・クアレスマ、アンヘル・ディ・マリア、ファビオ・コエントラン、ジョゼ・モウリーニョ、ラダメル・ファルカオ)



・
・
・

主な代理人と契約プレイヤー

【ロシア】

ヴィクトル・ハラプルディン (ジルコフ、相馬崇人)



・
・
・

主な代理人と契約プレイヤー

【日本】

アスリートプラス(アマル・オシム、新居辰基、イビチャ・オシム、上田康太、鈴木規郎、関口訓充、中村憲剛、馬場憂太、細貝萌、宮本恒靖、山岸範宏、山瀬幸宏) 大野祐介

インタースポーツ(田中マルクス闘莉王、服部年宏、松代直樹、南雄太、明神智和) 糀正勝



・
・
・

主な代理人と契約プレイヤー

【日本】

インターロープ (ジョアン・カルロス、ネルシーニョ、川勝良一、新井場徹、野沢拓也、古賀正紘、杉本健勇、李忠成、千葉和彦、青山敏弘、津田知宏、西紀寛、小宮山尊信、井川祐輔、柴崎晃誠、南雄太、小川佳純、青木良太、小林祐希、深井正樹、茂庭照幸、松井謙弥、和田拓也、加部未蘭、中原貴之、児玉新、ウェズレイ、マルケス、ヴァステイチ、パナディッチ、レアンドロ・ドミンゲス、ジョルジ・ワグネル、ダヴィ・ジョゼ・シルバ・ド・ナシメント、アルセウ 稲川朝弘)



- ・
- ・
- ・

主な代理人と契約プレイヤー

【日本】

KKスポーツマネージメント (秋葉勝、エフライン・リントロウ、落合正幸、近藤直也、サーレス、澤昌克、清水健太、ジュリオ・セザル、ダウンビア、那須川将大、ファビオ、ミシェウ、レオナルド) 木村精孝

コンパツ・デ・フツチボル (木谷公亮、ジョニウソン、チアゴ・ネーヴィス、ネルシーニョ、三浦知良、安永聡太郎、ロペス) 田路雅朗



-
-
-

主な代理人と契約プレイヤー

【日本】

SARCLE (池端陽介、石田祐樹、乾貴士、内田篤人、大西容平、大前元紀、岡野雅行、小野伸二、倉貫一毅、小林宏之、高木俊幸、高木善朗、高木大輔、坪井慶介、長沢駿、平川忠亮、深谷友基) 秋山祐輔

サッカープラネット (シルビーニョ、バロン、廣山望、福田健二) ロベルト佐藤

ジェイプランニング 吉見潤



-
-
-

主な代理人と契約プレイヤー

【日本】

JEBエンターテイメント (稲本潤一、大久保嘉人、太田吉彰、角田誠、梶山陽平、菊地直哉、北澤豪、沓澤曙、栗原圭介、栗原勇蔵、佐藤優也、鈴木慎吾、相馬崇人、高萩洋次郎、高田保則、高橋泰、田中達也、鄭大世、中澤佑二、中山悟志、西大伍、西山貴永、平山相太、藤田祥史、槇野智章、松橋章太、森重真人、安田理大、山瀬功治、吉田宗弘、吉原宏太) 田邊伸明
仁科佳子
山崎卓也



-
-
-

主な代理人と契約プレイヤー

【日本】

ジャパン・スポーツ・プロモーション／ソル・スポーツマネージメント (家長昭博、石川直宏、宇佐美貴史、エスクデロ・セルヒオ、枝村匠馬、遠藤保仁、加地亮、我那覇和樹、加茂周、北嶋秀朗、倉田秋、駒野友一、今野泰幸、三都主アレサンドロ、シジクレイ、高木義成、チョ・ジェジン、永島昭浩、名良橋晃、西澤明訓、布部陽功、野田朱美、橋本英郎、播戸竜二、藤本淳吾、本田拓也、森島康仁、山口素弘) 西真田佳典(大阪)

高木泰裕(大阪)

熊崎厚夫(東京)

柳田佑介(東京)



-
-
-

主な代理人と契約プレイヤー

【日本】

シュートライブ (大津祐樹、林雅人、藤田俊哉、矢島卓郎、吉田麻也) 清岡哲朗

スポーツコンサルティングジャパン (青山隼、阿部勇樹、岡崎慎司、狩野健太、坂田大輔、高松大樹、都築龍太、長友佑都、中村俊輔、中村北斗、那須大亮、西川周作、長谷部誠、福西崇史、水野晃樹) ロベルト佃



・
・
・

主な代理人と契約プレイヤー

【日本】

スポーツビズ (羽田憲司) 坂本英明

BBAプロモーション (アラウージョ、アレモン、アンドレ、エドワード・マルケス、ジャメーリ、デーニ、ニヴァウド、マルシオ・アラウージョ) 橋本幸一

プレイヤーズファースト (小野大輔、鈴木拓也、森崎浩司)
松浦修也



-
-
-

主な代理人と契約プレイヤー

【日本】

フルキャスト・スポーツ(李乙容、池元友樹、市川大祐、氏原良二、エムボマ、遠藤彰弘、大竹奈美、小林久晃、小原章吾、鈴木隆行、ストイコビッチ、相馬直樹、田中隼磨、デイド・ハーフナー、デイビッドソン純マークス、外池大亮、檜崎正剛、ハーフナー・マイク、萩村滋則、橋本早十、本田征治、三浦淳宏、三浦由美、美尾敦、若林学) 今時靖

ボランチ 吉崎博文



・
・
・

主な代理人と契約プレイヤー

【日本】

ユニバーサルスポーツジャパン (ミハエロ・ペトロビッチ、ズデンコ・ベルデニク、マリアン・プシュニク、アレックス・ミラー、アフシン・ゴトビ、臼井幸平、内田智也、梅崎司、江角浩司、柏木陽介、川口能活、菊池大介、小林大悟、小林慶行、小林祐三、トウイード、戸田和幸、富田大介、遠藤航、根占真吾、菅野考憲、茨田陽生、エディ・ボスナー、アレックス・ブロスケ、カルフィン・ヨン・ア・ピン、原口元気、高崎寛之、宇賀神友弥、ズラタン・リュビアンキッチ、永田拓也、西岡大輝、) 遠藤貴



・
・
・
・
・
・
・

・
・
・

主な代理人と契約プレイヤー

【日本】

ラムゼス／ラ・ファミリア (新井涼平、岩沼俊介、衛藤裕、
工藤壮人、幸野志有人、仙石廉、西嶋弘之、横野純貴)

野村豊幸

宮本行宏 (玉田圭司)

SFX (オーウェン、ベッカム) ヒール・デッカー

ゾラン・ベキッチ (アンリ、イエロ、グティ)

ディエゴ・ケイルーガ (サビオラ)

ガエターノ・フェデレ (ファビオ・カンナバーロ)



-
-
-

代理人

一般には何らかの行為を自分以外の利益のために代わって行う人のこと。または自分以外の利益のためと称して行う人のこと。代行者、代弁者とも。

民法の制度としての代理人については代理を参照。民法においては発生原因に応じて任意代理人と法定代理人との区別がある。

プロ野球や競馬等アスリート、また芸能界におけるタレントの代理人についてはエージェントとも呼ばれる。



- ・
- ・
- ・

代理人交渉制度

【制度の歴史】

アメリカのメジャーリーグでは1970年代に代理人交渉制度が盛り込まれ、定着した。

日本プロ野球では1992年にヤクルトスワローズの古田敦也が契約更改交渉において初めて代理人による交渉を希望したが、「球団と選手の信頼関係が揺らぎかねない」として球団側が認めていなかった。なお野球協約では選手契約時に「球団職員と選手とが対面して契約しなければならない」と選手出席の契約を義務付けており、参稼報酬調停では参稼報酬調停委員会が選手本人から聴取することを義務付けている。しかし、契約更改では選手出席の契約義務に関する明文規定はなく、また選手契約や参稼報酬調停委員会において選手以外の代理人を同席させることを禁止する明文規定はない。



- ・
- ・
- ・

代理人交渉制度

1999年8月の労使交渉で弁護士有資格者に限るという条件付きで、代理人の同席を認める答申が出されて、代理人交渉制度が運用されるようになった。2001年に契約更改交渉の大半を弁護士単独で行っていた日本ハムファイターズの下柳剛について、日本弁護士連合会は2001年1月26日に参稼報酬調停で代理人の出席を認めないのは選手に対する権利侵害であるとともに弁護士業務に対する重要な侵害である旨見解を公表した。

最終的に参稼報酬調停における代理人の出席が認められた。読売ジャイアンツの渡邊恒雄オーナー(当時)は12球団の中で最後まで認めていなかったが、渡邊が2004年に辞任して以降は一転し、巨人も代理人交渉制度を容認した。



・
・
・

代理人交渉制度

現在の日本プロ野球における代理人交渉の条件は以下の通り。

- 1.代理人は日本弁護士連合会所属の日本人弁護士に限定
- 2.一人の代理人が複数の選手と契約することの禁止
- 3.選手契約交渉で初回の交渉には選手が同席を必要とするが、二回目以降の交渉について球団と選手が双方合意すれば、代理人単独交渉も可能

プロサッカーでは国際サッカー連盟(FIFA)による公認代理人が存在し、FIFA公認代理人以外を認めない国及びリーグも存在するが、2011年よりFIFA公認代理人を廃止する方向で検討されている。

日本プロサッカーのリーグでは「リーグ規約」にて、代理業務を行えるのは弁護士、またはFIFA公認代理人に限ると定められている

○



-
-
-

騎乗依頼仲介者

騎乗依頼仲介者(きじょういらいちゅうかいしゃ)とは、日本の中央競馬において、「調教師から騎手に対する騎乗依頼を仲介する者」として日本中央競馬会 (JRA) に届けを提出している者のことである。

ほかのスポーツにおける代理人、エージェントに相当する人物であり、一般には「エージェント」の呼称で呼ばれることが多い。



騎乗依頼仲介者（概説）

中央競馬において、騎乗依頼の仲介者を導入した先駆けといわれるのは岡部幸雄である。岡部は「レースに集中したい」という理由から、競馬新聞『競馬研究』の記者・松沢昭夫に仲介を依頼した。岡部は厩舎に所属せず、特定の厩舎や馬主に拘束されないフリー騎手の先駆けでもあったが、岡部の影響を受けフリーとなる騎手が増加するなか、仲介者を導入する騎手も増えていった。こうした動きをやむなく追認する形で、2006年4月にJRAが導入したのが騎乗依頼仲介者の制度である。一部では「騎手とエージェントとの間でやり取りされる手数料の金額が高額になってきており、これを放置したのでは税務処理上問題がある」という指摘が国税庁からJRAに対してなされたことが追認の背景にあると指摘されている。

騎乗依頼仲介者に対する報酬は、騎手がレースで得る賞金（進上金）の中から支払われるのが一般的であるため、JRAの定義において騎乗依頼仲介者は「騎手側の代理人」として位置づけられている。ただ、最近では一部の調教師が特定の騎乗依頼仲介者に騎手探しを任せるなど「調教師側の代理人」を務める仲介者も現れているともいわれており、ますますその重要性が高まっている。



-
-
-

騎乗依頼仲介者（仲介者を務める人物）

仲介者を務める人物としては競馬新聞の記者（トラックマン）、スポーツ新聞の競馬担当記者など、競馬マスコミに関係することで厩舎に出入りし、また騎手とも接点を持っている人物が大半を占めている。

実際には1人の仲介者が複数の騎手の代理を務めていることが多く、ある騎手への騎乗依頼に対しその騎手が都合が悪い場合にその仲介者が代理を務めるほかの騎手を優先的に紹介することもよく行われている。とくに『競馬ブック』記者の小原靖博は岩田康誠・四位洋文など多くのトップジョッキーの仲介者を務めているため、近年『競馬最強の法則』（KKベストセラーズ）など一部の競馬雑誌では小原が仲介者を務める騎手グループを指して「小原ライン」なる言葉が生まれるほどとなっている。



- ・
- ・
- ・

騎乗依頼仲介者（利点と問題点）

騎乗依頼仲介者を介することで、騎手は騎乗依頼の処理に追われることがなくなり、また調教師や馬主などとのしがらみにとらわれることなく騎乗する競走馬を選択することができる。それにより「強い馬に腕のいい騎手が乗る」という原則が確立されるようになる。

一方、騎乗依頼仲介者の多くを占める競馬新聞・スポーツ新聞の記者は、みずからが所属する競馬新聞・スポーツ新聞紙上で予想を発表する立場にもあることから、「騎乗依頼を仲介しつつ馬券の予想行為を行うことは本来利益相反する行為であり、公正競馬の確保という観点から問題がある」という批判がある。事実、公正競馬の確保という目的から、現在現役の騎手・調教師や厩舎関係者が予想行為を行うことが事実上禁止されていることを考えると、騎乗依頼仲介者による予想の公表が今後問題視される可能性も考えられる。



騎乗依頼仲介者（利点と問題点）

また厩舎（JRAの場合美浦トレーニングセンター・栗東トレーニングセンター）は公正確保のために部外者の出入りが厳しく制限されているが、そのような条件下でも取材目的で出入りが許されている競馬記者が取材以外の活動を行うことはマスコミ特権の濫用・逸脱と考える向きもある。

従来JRAは「1仲介者につき担当できるのは騎手3人まで」との制限を設けていたが、実際には同一の競馬新聞・スポーツ新聞に所属する仲介者同士でグループを組み騎乗馬を融通しあうといった行為が行われていることから、制限が有名無実化していた。前述の小原などは大人数の騎手を請け負うことで競馬界に大きな影響力を及ぼしており、これには競馬ファンはもちろん、関係者などからの批判も多い。さらに、複数の騎手の仲介をすることは八百長などの不正行為に繋がる可能性もあるという意見もある。



- ・
- ・
- ・

騎乗依頼仲介者（利点と問題点）

このためJRAでは2012年より、1仲介者につき担当できる騎手の数を「騎手3人＋減量騎手1人」に緩める代わりに、仲介者同士でグループを組んだり、ローカル開催時に別の仲介者の代理を務めたりする行為を原則として禁止する方針を打ち出し、同年6月1日より実施する。また新聞記者・トラックマンと騎乗依頼仲介者の兼業を禁止することも検討していると報じられている。ただこれらの規制がどの程度実効性を伴うかについては疑問視する関係者も多い。

騎乗依頼仲介者となるにはJRAへの届け出が必要であるが、これまで具体的に誰がどの騎手の騎乗依頼仲介者を務めているかは公表されていなかった。これについても2012年6月の制度改革後は届出を義務化するとともに氏名の公表も開始する。氏名は美浦トレーニングセンターと栗東トレーニングセンターの公正室に掲示されている。



・
・
・

平均合格率8%

サッカー選手の代理人試験はとっても厳しい

選手とクラブの橋渡しの役目を果たす代理人は、現代のサッカー界に欠かせない存在。大物選手と契約を結べば、巨額の移籍金を動かすだけでなく手数料として自分の懐も潤うことから、代理人の公式ライセンスを取得しようとする人たちは後を絶たない。



- ・
- ・
- ・

受験のハードルは低いが合格率は8%

4月4日、イタリアのローマにある「マリオット・パーク・ホテル」でイタリアサッカー協会主催の代理人ライセンス取得試験が行われた。このテストに合格すればイタリアサッカー協会公認の代理人として活動することができるが、そのためには困難な筆記試験をパスしなければならない。スポーツに関する権利やFIFAが定める細々とした条文などが出題される。もっとも、試験自体は中学卒業証明書と受験料100ユーロを用意すれば誰でも受けることができる。



- ・
- ・
- ・

受験のハードルは低いが合格率は8%

この日、ローマのホテルに集まった受験者は約500人。平均合格率8%という難しい試験に挑む顔ぶれは実に様々であった。

元セリエA選手、工場作業員、失業者、建築会社を営む家族の子どもたち、エンジニア、会計士、公証人、主婦など。

どの受験者も試験終了の瞬間まで、罰則事項や契約に必要な保証金、税金込みの報酬額などの問題と格闘した。



・
・
・

元選手から弁護士、サッカーファン、主婦までが受験

試験はマークシート方式で20問出題される。
受験者はサッカーの試合で1試合分、つまり
90分間で20問を解くことになる。

「引っかけ問題も含まれているので、とても難
しかった」と試験終了後に語ったのはモロッコ
人のスガール。普段はボルツァーノでシェフと
して働いている彼だが、母国モロッコの若手
育成機関にコネがあるという。



合格後には多額の負担金が必要

出題される問題は、一般的な事例として実際に発生する契約を応用して作成される。「サッカー選手カイオは、クラブαと選手契約を結ぶ...」こんな感じだ。

試験に合格した後は、代理人登録にかかる税金、契約交渉を行う前に毎年必要とされる負担金、警察への保証金として相当な額を納めなくてはならない。

現在セリエAに登録されている選手の数は1079人だが、FIFAのサイトによるとイタリアで公式認定されている代理人の数は1062人でセリエA選手の数とほぼ同数。575人のスペインの2倍、269人とされるブラジルの4倍近い代理人がイタリアには存在することになる。しかし実際に活動している代理人は1000人のうち200人だけで、ミノ・ライオラのように有力な代理人として数えられるのは、わずか30数人なのが実状。



- ・
- ・
- ・

誰もライオラにはなれない

世界トップの代理人として知られるライオラ。オランダのピザ屋で働いていた彼は、アヤックスの選手たちのもとへ通い、今やイブラヒモビッチ、バロテツリ、ハムシク、ポグバを手掛ける超一流のエージェントだ。代理人は選手と契約を結ぶ際に「現在の収入に対して3%を手数料として支払う」といった条件を付けているため、彼らは巨額の収益を得ることになる。さらに選手とクラブの契約が成立した際にもボーナスが支払われることもある。

法学部を卒業し、代理人として活動しているアントニオ・ジオルダーノは「ライオラのようになろうと考えて試験を受ける人は、家に帰ったが良い」と語る。彼はビジネスとしてこの試験の「対策コース」を開講している。料金は600～700ユーロで、少なくとも2ヶ月は厳しい勉強に耐えなければならない。しかし、世の中にはコースの受講料として2000ユーロもの金額を要求する弁護士も存在する。



-
-
-

